

# いもう 葦毛通信



平成 27 年 10 月 23 日  
豊橋市文化財センター  
TEL : 0532-56-6060

No. 29

## 1、2015 モニタリング報告ー7

サワギキョウ

### バックホーによる作業の結果

バックホーによる作業は、M→L→E→C→G 地点の順に進め、木の根の抜根、ネザサ・コシダの根の層の除去と土の播き出しを行いました。

現在までの最も明瞭な成果としては、根の層を剥がすことにより隠れていた水の流れが地表面に現れるようになったところがあり、そこからシラタマホシクサが数多く発芽してきました。森林化した部分の木を伐っただけでは、シラタマホシクサは復活しませんでした。

根の層をバックホーで除去することで湿性植物が発芽できる環境になったと考えられます。

### D・E 地点(三の沢)

D・E 地点の上流部は礫が目立つ裸地になっています。上の写真中央右の三角形の群落はすべてシラタマホシクサです。やや低くなって水分の多いところを中心



D・E 地点上流部 (上流から)



D・E 地点 (上流部)



D・E 地点 (下流部)

に密集して発芽しました。周囲でも単独で発芽したものがまばらに見られます。下の写真の左は上流部を下流側から見たところです。石が目立つ裸地になっているところがバックホーで根の層を除去した部分です。密集したシラタマホシクサの群落が画面奥にあり、下流に向かって転々とシラタマホシクサが発芽しました。今年の秋は一年目なので植物の発芽が少なく、裸地の地表面が目立っています。右側の写真は下流部で中央やや右に水の流れがあり、周辺はほぼ全面にシラタマホシクサが開花しました。この部分は、大規模植生

回復作業前には森だったところでした。作業後の一年目はシラタマホシクサがわずかに発芽しましたが、石が目立つ裸地の状態でした。二年目にヤチカワズスゲやシラタマホシクサ等が増え、三年目の今年は、一面にイヌノハナヒゲやシラタマホシクサが出てくるようになり、石が目立つ裸地の地表面は見えなくなりました。今年裸地の地表面が目立つ上流部も来年以降はシラタマホシクサ等が増えるものと思われま

### C地点

C地点は、コシダやネザサの根の層を除去して水の流れが復元された画面中央から左上の上流部にかけてシラタマホシクサが点々と発芽しました。現在は礫が目立つ裸地の状態ですが、作業前は森だったところでした。中央部分に隠れていた水の流れがありますが、その周囲はやや乾燥しており、湿地にはならないようです。画面右側が下流側でヌマガヤ群落です。湿地の部分はここまでで、これより上流部は草地になると思われま



C地点（東から）

### C・G地点(二の沢)

C・G地点が接するところは、二の沢と呼ばれていたところにあたります。作業前は森だったところ、バックホーによりネザサやコシダの根の層を除去したところ、石が目立つ裸地の状態になり、写真中央に水の流れが見られるようになりました。左側の上流部が二の沢ですが、水は地表に現れたり、地下にもぐったりしながら、上流から流れてくるようです。ここで復元された水の流れに沿って、コシンジユガヤが数多く発芽し、シラタマホシクサが点々と発芽して開花しました。根の層をバックホーで除去することにより、湿性植物が発芽できる環境になりました。



C・G地点（東から）

### G地点(中央部)

写真（G地点中央-1）に写っている裸地の部分は、すべて作業前は森だったところでした。バックホーでネザサやコシダの根を除去しました。左下から右上に向かった手前の細長い群落にシラタマホシクサが帯状に開花しました。周囲にもまばらに開花しています。画面中央から左はイヌノハナヒゲ群落になっている部分ですが、手前の群落の縁は同じようにシラタマホシクサが帯状に開花しています。



G地点中央-1（西から）

G地点中央-2は、中央左側がイヌノハナヒゲ群落で裸地に接する周辺部にシラタマホシクサが見られます。中央右側がバックホーにより、ネザサやコシダの根の層を除去した部分です。中央手前から右に帯状にシラタマホシクサが隠れていた水の流れに沿って開花しています。

G地点中央-3は、バックホーにより礫層を薄く剥いだところです。中央の群落はシラタマホシクサとイヌノハナヒゲで水の多いところを中心に帯状に上流部に伸びています。



G地点中央-2 (西から)



G地点中央-3 (西から)

### G地点(一の沢)

写真のG地点上流は、イヌツゲなどが侵出し、ネザサやコシダが繁茂した島状部でした。右手の上流部に向かって沢があり、一の沢と呼ばれているところです。島状部はバックホーによりネザサやコシダの根を除去し、奥側に播き出したところです。カヤツリグサの仲間やヌマガヤ、イヌノハナヒゲ等が発芽してきました。画面奥から手前に向かって水の流れが復元されましたが、上流でシラタマホシクサが数個体発芽・開花しています。

一の沢の部分は現状ではシラタマホシクサはほとんど見られませんが、現在、森林化してしまった部分に良好な湿地があり、シラタマホシクサ、サワラン、ミカワシオガマ等が見られたそうです、今回わずかに発芽したシラタマホシクサは、かつて良好な湿地があった頃の埋土種子から発芽したものと思われます。今年の作業で、良好な湿地だった森林化した沢沿いの湿地は、木を伐って、湿地の状態を復元する予定です。

バックホーによる作業の成果として、現時点で最も明確なのは、復元された水の流れに沿って、シラタマホシクサが上流部に向かって帯状に伸びるところが、いくつも見られるようになったことです。また、これまで表土を剥いだ実験区の知見では、一年目は植物の発芽が少ない傾向にありますが、二年目からは植物の発芽が増える傾向にあるところから、来年はさらに増えていくものと思われます。

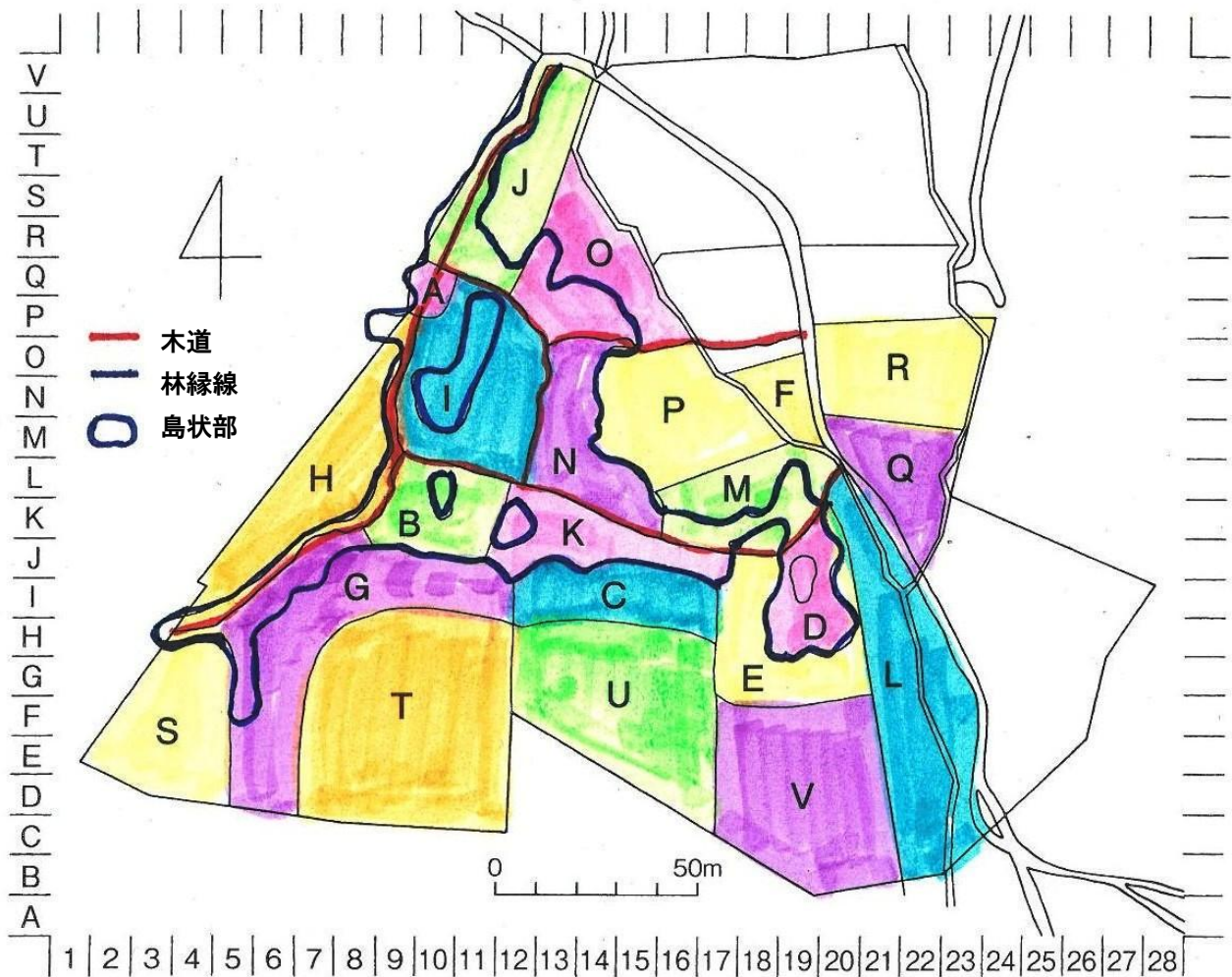


G地点上流 (西から)

## 2、葦毛湿原作業地区割図

葦毛湿原の作業は、地区割をして作業を行っています。葦毛通信5号で平成24・25年度の作業地区を示しましたが、全体が分かりにくいという意見があったので、今一度説明し

ます。これまでのところ、基本的に作業順に従ってA～V地点まで設定しています。地区の設定にあたっては、木道、湿地と森の境の林縁部（大規模植生回復作業開始前）を目印にしています。下図の赤が木道、青が林縁線になります。湿地内部の青は島状部です。C・E・G地点は作業前には森でしたが、現在は作業が進み、湿地や草地になっています。



葦毛湿原大規模植生回復作業地区割図

### 3、平成27年度大規模植生回復作業予定

平成27年度の植生回復作業は昨年と同様に、11月から3月までの**毎週火曜日**と**毎月第3日曜日**の午前中(9～12時)に行います(年末年始は休み)。昨年同様に多くの方の参加をお願いいたします。また、作業には参加できないが植生回復作業を見学したいという方も、いつでもご自由に見学可能です。11月3日(火・祝)が作業の初日になります。集合場所は昨年と同じです。

葦毛湿原の指定地から上流は国有林になっていますが、国有林内から葦毛湿原に向かって流れるいくつかの沢があったそうです。現在は森林化し、また、ミズゴケ等で埋まり、水の流れはほとんど見ることはできません。代表的な一の沢から三の沢と呼ばれる沢沿いには、かつて良好な湿地があったようです。今年度は森林化した湿地と草地を復元するために、木の伐採を大規模に進めるつもりです。作業はL地点の沢沿いから始め、三の沢⇒二の沢⇒一の沢へと進めるつもりです。

作業初日の11月3日は、まず現地を回りながら昨年度の作業の成果を確認し、今年度行う予定の作業の内容を詳しく説明します。